

## 5 レタスベと病菌のレースについて

### ねらいと成果

海外におけるレタスベと病防除対策の主流は、抵抗性品種の利用であり、現在まで多くの抵抗性品種が育種されてきた。ベと病菌は多くのレースに分化し、抵抗性品種を利用するには産地内におけるレース調査が必要である。

そこで、本病に対する抵抗性品種利用の可能性を検討するため、淡路島における本病菌のレースを調査した。その結果、2007年に採集した菌株は、「CA」タイプであったが、2009年に採集した菌株は、今まで海外でも報告のない新レースであった。

### 内容

品種反応には、レース調査に利用する国際標準品種20品種を供試した（カリフォルニア大学分譲）。ポリカーボネート製分別クリアケース（25×19×4cm）を20区画に仕切り、検定品種を各20粒は種、恒温室内（16 12時間暗 - 12時間明）で約10日間栽培して子葉期になった苗を検定用とした。接種は、レタス子葉の病斑表面に形成した検定菌株の分生子を健全苗に接種した。接種後ふたをして湿室状態に保

ち、恒温室内（16 12時間暗 - 12時間明）で生育させた。調査は、約10日後の各品種の分生子の形成を観察し、わずかでも分生子の形成がみられた場合は、発病と判断した。

その結果、2007年に採集した菌株は、「CA」タイプと反応が一致した。2009年に採集した菌株は、「UCDM2」「Dandie」「R4T57D」「PIVT1309」に対する反応に違いがあるが、その他の品種に対する反応は共通であった。これらは、従来の検索表に記載のない新しいレースであった。淡路島内の菌株の検定品種に対する反応が分かったことにより、市販されている抵抗性品種を適切に選択することが可能になる。

### 今後の方針

今後も継続して、現地での発生菌株を採集、レース調査を行い、抵抗性品種導入の基礎資料とする。

西口 真嗣（淡路農技セ 農業部）

（問い合わせ先 電話：0799-42-4880）

病原菌の中で品種に対する病原性が異なる系統がある時、その菌系統をレースという。本病では25以上のレースがある。

表 淡路島内で採集したレタスベと病菌の国際標準のレース検定品種に対する反応

2007年南あわじ市の菌株は、「CAⅧ」タイプと反応が一致

UCDM2等に対する反応が「CAⅧ」(07年南あわじ市)と09年洲本市・南あわじ市では異なる。

国際標準 品 種 名	Cobham Green	Lednicky	UC DM2	Dandle	R4T57D	Valmaine	Sabine	LSB 57/15	UC DM10	Capitan	Hilde II	Pennlake	UC DM14	PIVT 1309	LSB /18	LS-102	Colorado	Ninja	Discovery	Angeles
07年南あわじ市	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	-	-	-
09年洲本市①	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	-	+	-	-	-
09年洲本市②	+	+	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	-	+	-	-	-
09年洲本市③	+	+	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	-	+	-	-	-
09年南あわじ市	+	+	-	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	-	+	-	-	-
CAⅧ タイプ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	-	-	-